

親として今、しておくこと

小嶋基次

2月の雨が降る日曜日の午後のことでした。名古屋栄のパルコ前交差点で、私は横断歩道の信号が青に変わるのを待っていました。雨も小降りになって、傘をさしている人も半数ぐらいになっていました。

その傘を眺めるともなく見ていると向こう側の人の群れの中から、27、8歳位の二人の女性嫡旨になるのを待ちきれないで、視線をあびながら、こちら側に歩きだしたのです。この二人は、それより数分前、信号が青から赤に変わった瞬間に渡ろうとして、左折のタクシーに警笛を鳴らされて思いとどまったばかりだったのです。

二人の女性が、こちら側に着いた境に、今度は、こちら側から20歳位の女性が二人、向こうに横断を始めたのです。でも、まだ信号は赤で人々は待っていました。後の二人は前の二人の真似をしたのです。

次の交差点の信号でも、若いペアが大勢の人達の前で、意気揚々と赤信号を無視して横断歩道を渡りPでいきました。お母さん方も、このような光景をご覧になったことはありませんか。そして、どのように思われますか。

これによく似たことが日常みられるのが街のスーパーの近くです。お母さんが幼い子供の手を引いて、チョコチョコ小走りで道路を横断していますね。僅か20メートル先に横断歩道があるのです。時には、お母さんの後を子供が懸命に走っていたり、お母さんが道路の向こう側に着いてしまって、子供を手招きしているケースもあるのです。

このようなことをしている大人たちは、この子供の十年後や二十年後のことを考えたことがあるでしょうか。その頃には、この子供達は確実に自分の親と同じことをしているか、怖いことですが命がないかもしれません。少しの時間を惜しんで命を失ってはたまりませんね。

社会ルールの遵守を小さい時から教えねばなりません。一番最初に教えるのが社会生活のルールなのです。

それが人生の模範となるべき母親や、将来、親になる若者がこのようでは困りますね。

子供というものは、親が口を酸っぱくして「勉強しなさい」「そうじしなさい」と言ってもやりません。そろそろ勉強しようかなと思っている矢先に「勉強しなさい」といわれた途端に嫌になってしまうのです。人間は本来強制されてやることを好まないのです。

では、どうしたら良いのでしょうか。勉強させようと思ったら、あるいは、勉強の好きな子供にしたかったら、お母さん自身すなわち親が勉強する、ことなのです。

「子供は親の言ったことはやりませんが、親のしたことは必ずやります」

親の姿を見て育ち、親にそっくりの行動をするようになるのです。それが良い、ことであればよいのですが、信号無視等のルール違反ですと、いつか自分が事故にまきこまれるか、自分が親になった時に、その子供が同じようなことになるのです。

私はコーヒーが好きで、よく喫茶店を利用しますが、店の入口に“店員募集”の張紙のしてある店は敬遠することにしています。その理由は店員教育がしてありませんね。ブスとしてオーダーを聞いてブスとしてコーヒーをテーブルに置いていくのです。このようなときの店員の顔は決まって能面のような仏頂面なのです。猿でも馬でももう少し愛敬があります。けれど、この店員には愛敬がありません。お客さんを大切にしていないのです。それをマスタ十が注意しますと店をやめてしまう若者が多いのです。そこには店長を含めた人間関係がありません。そして、また店員募集の張紙がぶらさがることになるのです。だから私はこのような店には入らないのです。店の主人も店員にやめられるのを恐れて、マナーの注意をしなくなって店のサービスはどんどん低下するのです。

つかの間の憩いを求めて行っている私の胃は、このウェイトレスの仏横面でキューと痛くなるのです。その点、家族でやっている店は自分の店を大切にしようという心構えからサービス精神にあふれていますね。

店員教育のしっかりした店はお客さんに対する“けじめ”が生きています。ところが非常に嬉しいことがありましたので紹介しましょう。

先程の信号無視の女性を見てから栄パルコ地下の片隅にあるクッキーとコーヒーの店に入って、オーダーしたコーヒーがテーブルに置かれて若いウェイトレスが微笑みながら「ごゆっくり」と言葉をかけてくれたのです。日曜日の午後で店は満席に近い状態でした。黙ってサッサッとコップを割げたり、すぐ相席にする店の多いなかで、「済みませんが満席ですから」と丁寧なことわっていました。

お客さんに対するサービス精神が店員に教育されている例でした。気持の和む、また行ってみたい気のある店でした。

お母さん方、大切の自分の子供にこのような一寸した心遣いや思いやりを与えようではありませんか。思いやりの心を与えるのに、時間がないとかお金がないとかは関係がありません。お母さんの一寸とした心の余裕と、それを実行して子供に見せてあげるのです。

子供に心と夢を与える素晴らしいお母さんになりましょう。

店長は店員に見合った報酬で人間関係を保っているでしょうし、母子は愛情で人間関係を成立させているのです。

今のうちに“けじめ”と“思いやり”をしっかりと身につけてあげたいものです。習慣になれば、それは教養になるのです。あいさつと返事ができて時間を守るがけじめ、と、やさしい言葉のかけられる余裕のある“思いやり”を与えるのは今です。